

# 函館商工会議所 平成25年度第1四半期景気動向調査結果

平成25年 7月

## I 調査要領

- |                |   |
|----------------|---|
| (1) 調査時点及び調査方法 | 調査票を平成25年7月3日に郵送し、平成25年7月17日を締切日として、FAXで回収  |
| (2) 調査対象期間     | 平成25年4月～6月期実績及び平成25年7月～9月期見通し   |
| (3) 調査対象       | 函館地域の本所会員事業所449社  |
| (4) 対象業種       | 製造業、建設業、卸売業(従業員20人以上)、小売業、サービス業(従業員10人以上)   |
| (5) 回収率        | 33.1%(回答数149社)  |
| (6) 回答企業内訳     | 製造業39社、建設業26社、卸売業29社、小売業30社、サービス業25社  |
| (7) 語句の説明      | DIとは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index 景気動向指数)の略で、景気の上向き傾向を表す回答割合(「増加」や「好転」など)から景気の下向き傾向を表す回答割合(「減少」や「悪化」など)を引いた値 |

## II 調査結果概要

平成25年4月～6月期の函館地域の景況は、前回調査時(25年1月～3月期)に比べ、すべての調査項目においてDI値(表内赤字)が上昇し、特に公共事業の拡大を背景とした建設業の上昇は顕著なものとなっている。また、次期見通しについても、すべての調査項目においてDI値(表内緑数字)が上昇し、次期見通しは「好転」「増加」するとしている。

### 【業況判断】

前期比では、すべての業種でDI値がマイナスからプラスに転じている。また、次期見通しでも、建設業の大幅な上昇をはじめ、すべての業種で上昇している。

### 【売上】

前年同期比で、すべての業種が上昇している。また、製造業は依然マイナスながら12.9ポイント上昇している。次期見通しでは、全業種のDI値が24.2ポイント上昇し、建設業が66.7ポイントと最も大きく上昇している。

### 【純利益】

前年同期比では、全業種で20.0ポイント上昇し、マイナスからプラスに転じているが、製造業で12.3ポイント下降し依然マイナスとなっている。また、今期の水準DIでは、すべての業種で「黒字」企業が「赤字」企業を上回り、構成比も増加している。

### 【資金繰り】

前期比では、製造業を除くすべての業種でマイナスからプラスに転じポイントが上昇している。

次期見通しでは、製造業を除くすべての業種が、資金繰りが好転すると見通している。

### 【雇用】

前年同期比では、製造業がマイナスからプラスに転じる一方、サービス業は12.0ポイント下降しマイナスに転じた。

次期見通しでは、前年同期比で建設業が74.3ポイントと大きく上昇している。

### 【設備投資】

今期の新規設備投資実施企業割合は、前回調査時より製造業を除くすべての業種で増加している。設備投資目的は建設業で「経営多角化・商品多様化設備」、その他の業種では「老朽のための更新」を挙げている。

### 【経営上の問題点】

現在最も苦慮している経営上の問題点を業種別でみると、製造業は「原材料高」、建設業は「労務費の増加」、卸売業では「売上・受注の不振」「販売価格の値下がり」、小売業は「売上の不振」、サービス業は「求人難・人材難」が1番の問題点として回答している。

### Ⅲ 要 約

#### 1. 平成25年4月～6月期実績(今期)及び平成25年7月～9月期(次期)見通しについて

##### (1) 業況判断

###### 今期の業況判断

前期比D I (25年1月～3月期と比べた「好転」-「悪化」企業数構成比)は、全業種で32.8と前回調査時(25年1月～3月期:D I ▲22.6)より55.4ポイントと大幅に上昇し、前期より業況判断が好転している。業種別にみてもすべての業種で前期比より大幅に上昇し、特に建設業は102.3ポイント上昇し、一番の上昇率を示している。

前年同期比では、全業種で20.9と、前回調査時(25年1月～3月期:D I ▲6.3)より27.2ポイント上昇している。業種別にみると、ここでも建設業が前年同期比より68.6上昇しマイナスからプラスに転じている。

また今期の水準D Iは、全業種で14.0と、前回調査時(25年1月～3月期:D I ▲16.8)より30.8ポイント上昇している。業種別にみると、製造業は依然マイナスなものの、すべての業種でDI値が上昇している。

###### 次期見通し

今期比D I (25年4月～6月期と比べた「好転」-「悪化」見通し企業数構成比)は、全業種で36.5と、前回調査時(25年1月～3月期:D I 23.8)より12.7ポイント上昇し、好転を見通す企業が増えている。業種別にみると、すべての業種のポイントが上昇するなかでも、建設業は39.6ポイントと最も大きく上昇している。

前年同期比でも、すべての業種のポイントが上昇するなかで、建設業が50.5ポイントと最も大きく上昇し、好転の見通しを示している。

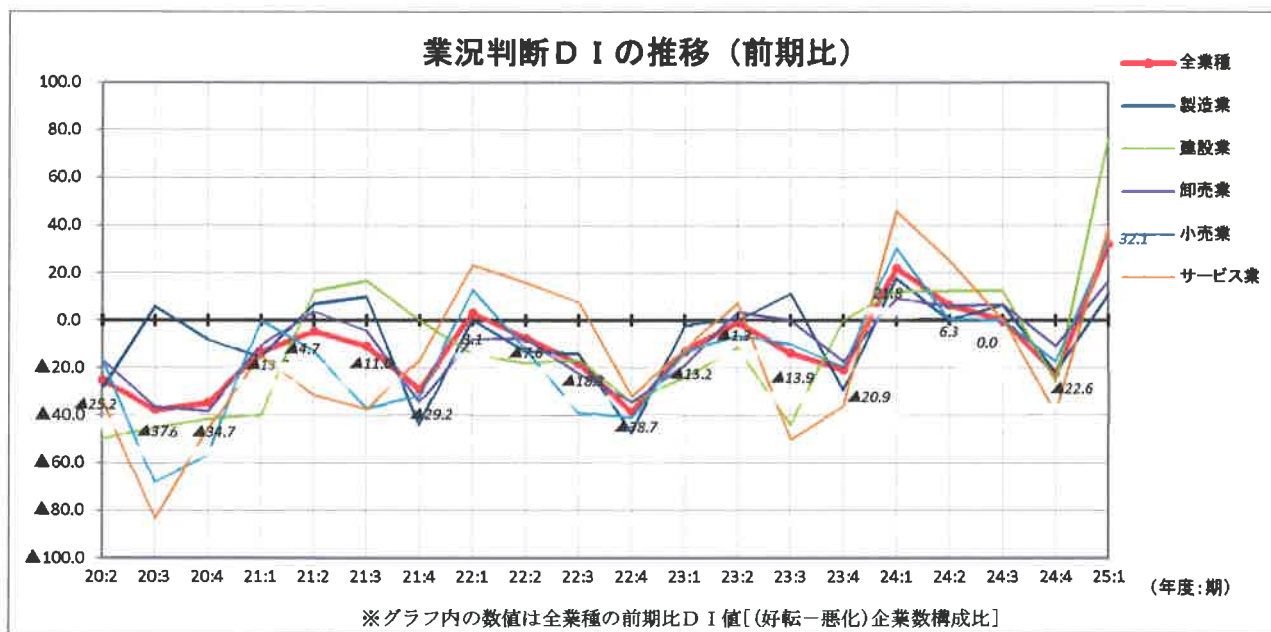


表1 業況判断D I

	今期結果 (25年4月～6月期)			次期見通し (25年7月～9月期)		
	今期の水準D I 25年4月～6月期の業況	前期比D I 25年1月～3月期に比べ	前年同期比D I 24年4月～6月期に比べ	今期比D I 25年4月～6月期に比べ	前年同期比D I 24年7月～9月期に比べ	
	製造業	▲ 7.7 (▲ 20.6)	13.2 (▲ 21.9)	▲ 7.9 (▲ 12.5)	20.5 23.5	▲ 5.3 (▲ 5.9)
建設業	47.4 (▲ 13.0)	76.2 (▲ 26.1)	55.6 (▲ 13.0)	70.0 30.4	72.2 21.7	
卸売業	4.2 (▲ 27.6)	16.7 (▲ 10.7)	12.5 (▲ 7.1)	24.0 10.7	16.0 (▲ 10.3)	
小売業	13.3 (▲ 22.9)	33.3 (▲ 17.1)	23.3 (▲ 3.0)	44.8 23.5	40.0 (▲ 8.6)	
サービス業	33.3 3.6	41.7 (▲ 39.3)	45.8 3.7	37.5 32.1	43.5 18.5	
全業種	14.0 (▲ 16.8)	32.8 (▲ 22.6)	20.9 (▲ 6.3)	36.5 23.8	27.6 1.4	

(注1) ( ) 内は前回調査時(25年1月～3月期)のD I 値

(注2) 表中の「今期の水準D I」とは、過去との比較ではなく、今期の業況水準を示している

(2) 売上の動向

◆ 今期の売上の動向

前年同期比D I (24年4月～6月期と比べた「増加」-「減少」企業数構成比)は、全業種で16.4と前回調査時(25年1月～3月期:D I ▲6.9)より23.3ポイント上昇している。業種別にみると、建設業が64.3ポイントと大幅に上昇し、サービス業も30.6ポイントと大きな上昇を示している。また、製造業も依然マイナスなもの12.9ポイント上昇している。

前期比では、全業種で27.3と前回調査時(25年1月～3月期:D I ▲21.1)より48.4ポイント上昇した。業種別にみると、すべての業種がマイナスからプラスに転じ、特に建設業とサービス業が大きく上昇している。

◆ 次期見通し

前年同期比D I (24年7月～9月期と比べた「増加」-「減少」見通し企業数構成比)は、全業種で24.2と前回調査時(25年1月～3月期:D I 0.0)より24.2ポイント上昇している。業種別にみると、建設業が66.7ポイントと最も大きく上昇し、小売業でも43.1ポイントと大きく上昇しマイナスからプラスに転じている。

今期比D I (25年4月～6月期と比べた「増加」-「減少」見通し企業数構成比)は、全業種で35.8と前回調査時(25年1月～3月期:D I 21.1)より14.7ポイント上昇している。業種別にみると、建設業が61.1ポイント上昇する一方、卸売業がプラスながら7.8ポイント下降している。

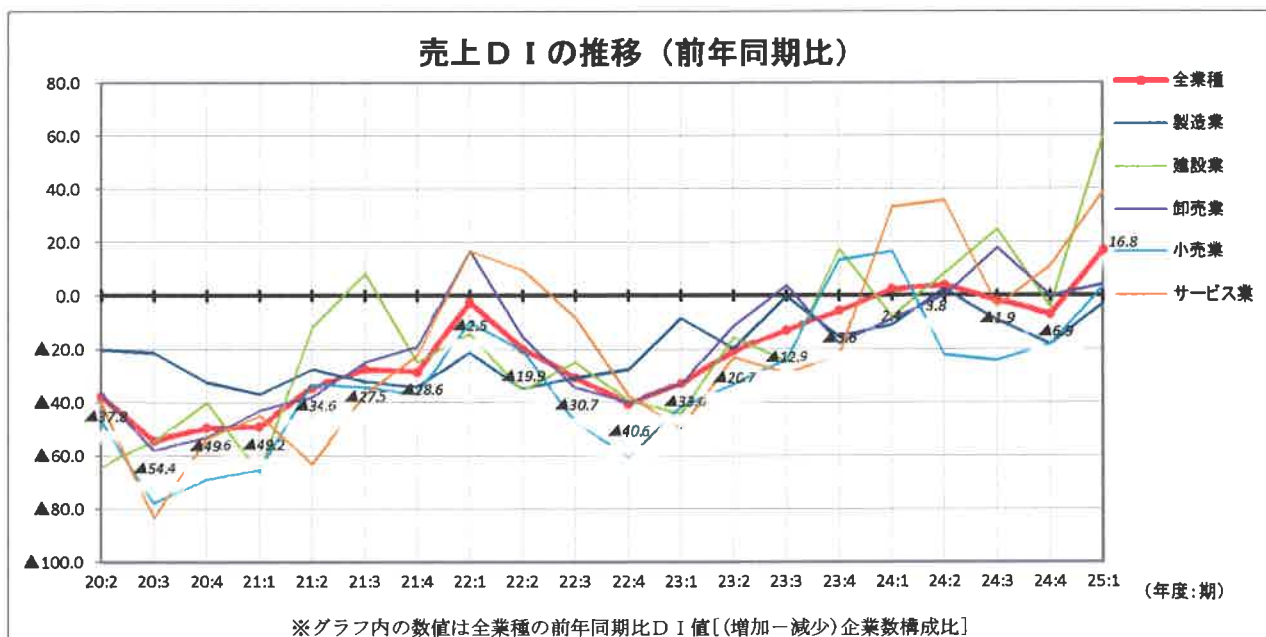


表2 売上D I

	今期結果 (25年4月～6月期)		次期見通し (25年7月～9月期)	
	前期比D I 25年1月～3月期に比べ	前年同期比D I 24年4月～6月期に比べ	今期比D I 25年4月～6月期に比べ	前年同期比D I 24年7月～9月期に比べ
製造業	20.5 (▲24.2)	▲5.3 (▲18.2)	23.1 17.6	▲5.3 (▲5.9)
建設業	56.5 (▲21.7)	60.0 (▲4.3)	61.1 0.0	66.7 0.0
卸売業	17.4 (▲7.1)	4.3 0.0	20.8 28.6	12.5 0.0
小売業	16.7 (▲17.1)	3.4 (▲18.2)	48.3 20.6	34.5 (▲8.6)
サービス業	33.3 (▲35.7)	41.7 11.1	37.5 35.7	39.1 18.5
全業種	27.3 (▲21.1)	16.4 (▲6.9)	35.8 21.1	24.2 0.0

(注1) ( ) 内は前回調査時(25年1月～3月期)のD I値

### (3) 純利益の動向

#### 今期の純利益の動向

前年同期比D I (24年4月～6月期と比べた「増加」-「減少」企業数構成比)は、全業種で11.7と、前回調査時(25年1月～3月期:D I ▲8.3)より20.0ポイント上昇し、マイナスからプラスに転じている。業種別にみると、建設業が38.6ポイント上昇し、卸売・小売・サービス業がマイナスからプラスに転じている。また、製造業は12.3ポイント下降し依然としてマイナスとなっている。

前期比では、全業種で20.4と、前回調査時(25年1月～3月期:D I ▲32)より52.4ポイントと大幅に上昇している。業種別にみると、すべての業種でマイナスからプラスに転じ、サービス業が83.9ポイントと最も大きく上昇している。

また今期の水準D Iは、全業種で38.9と前回調査時(25年1月～3月期:D I 16.8)からプラスを維持、「黒字」企業が「赤字」企業を上回っている。

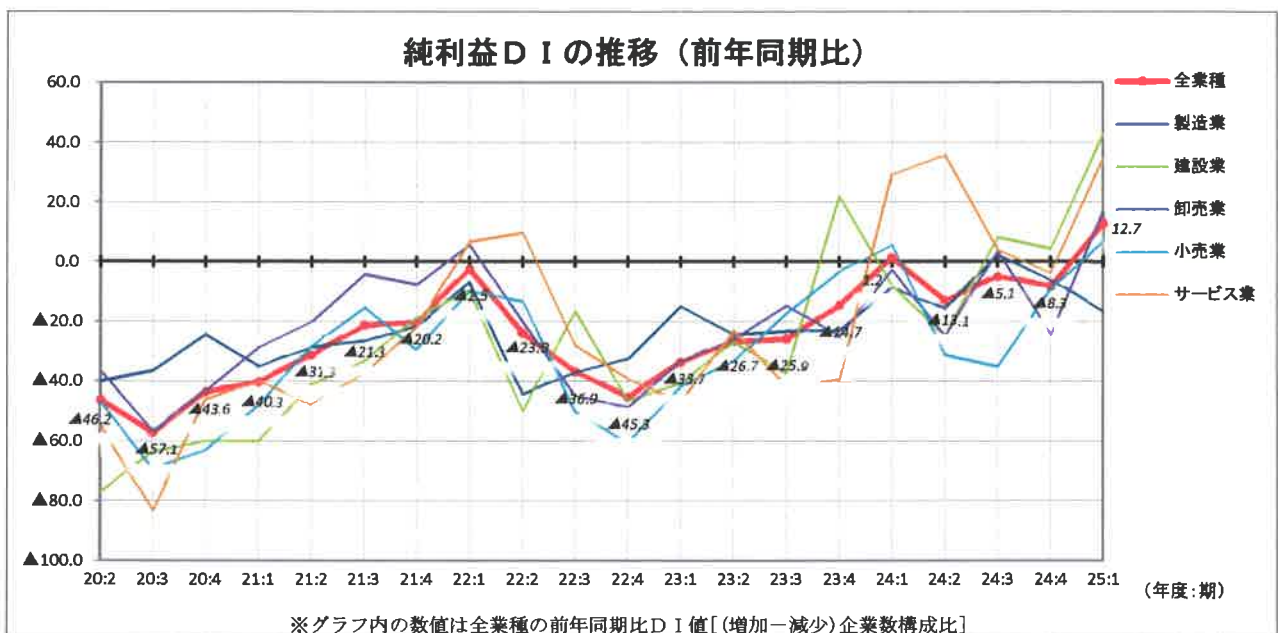


表3 純利益D I

	今期結果 (25年4月～6月期)					
	今期の水準D I 25年4月～6月期の業況		前期比D I 25年1月～3月期に比べ		前年同期比D I 24年4月～6月期に比べ	
製造業	30.8	29.4	0.0	(▲42.4)	▲18.4	(▲6.1)
建設業	55.6	17.4	54.2	(▲26.1)	42.9	4.3
卸売業	34.8	3.4	8.0	(▲28.6)	16.7	(▲24.1)
小売業	33.3	17.1	16.7	(▲17.1)	6.7	(▲9.1)
サービス業	50.0	14.3	37.5	(▲46.4)	33.3	(▲3.7)
全業種	38.9	16.8	20.4	(▲32.0)	11.7	(▲8.3)

(注1) ( )内は前回調査時(25年1月～3月期)のD I値

(注2) 表中の今期の水準D Iとは、過去との比較ではなく、今期の業況水準を示している

↓  
(「黒字」-「赤字」)企業数構成比

(4) 資金繰りの動向

今期の資金繰りの動向

前期比D I (25年1月～3月期と比べた「好転」-「悪化」企業数構成比)は、全業種で17.5と前回調査時(25年1月～3月期:D I ▲9.5)から27.0ポイント上昇している。業種別にみると、製造業がプラスからマイナスに転じる一方、その他の業種ではマイナスからプラスに転じ、好転している。

前年同期比では、全業種で18.3と前回調査時(25年1月～3月期:D I ▲6.9)より25.2ポイント上昇している。業種別にみると、建設・卸売・小売業でマイナスからプラスに転じ、特に建設業が77.4ポイントと大幅に上昇している。

次期見通し

今期比D I (25年4月～6月期と比べた「好転」-「悪化」見通し企業数構成比)は、全業種で17.7と前回調査時(25年1月～3月期:D I 4.8)から12.9ポイント上昇している。業種別にみると、建設業が43.5ポイント、小売業で24.1ポイント上昇している。また、卸売業はマイナスからプラスに転じ、今期に比べ見通しは好転している。

前年同期比では、全業種で17.3と前回調査時(25年1月～3月期:D I 0.0)より17.3ポイント上昇している。業種別にみると、建設業で43.5ポイントと最も大きく上昇している。また、卸売・小売業でマイナスからプラスに転じて好転する一方、製造業はプラスからマイナスに転じ、前年同期に比べ悪化の見通しを示している。

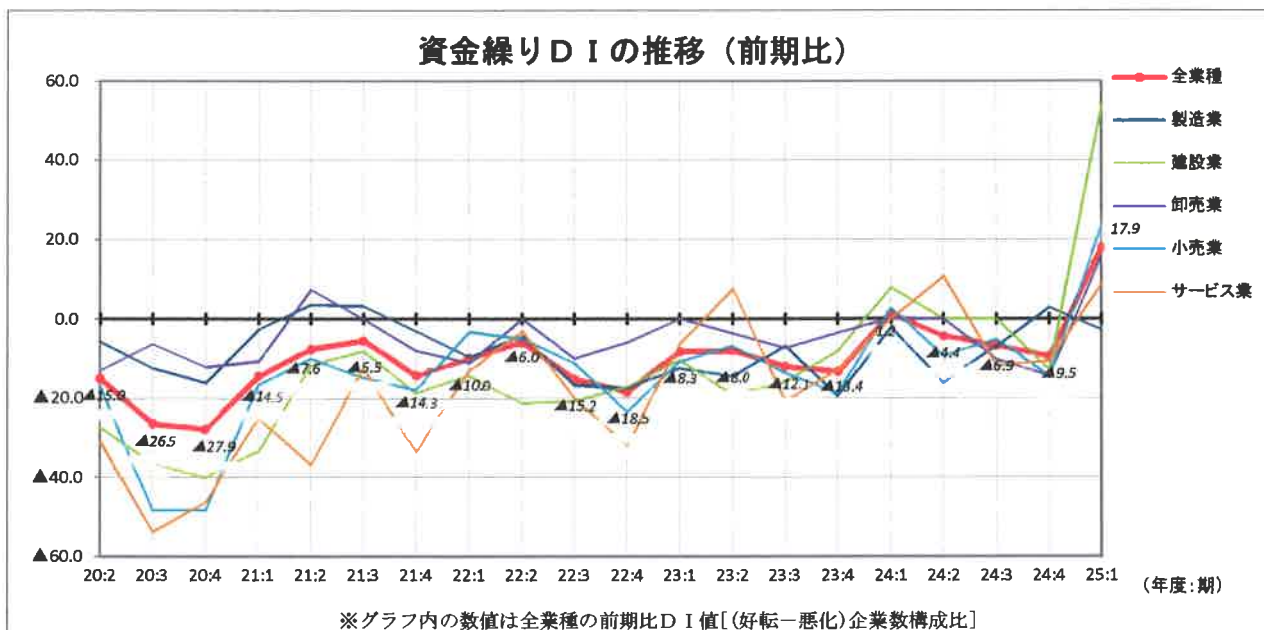


表4 資金繰りD I

	今期結果 (25年4月～6月期)		次期見通し (25年7月～9月期)	
	前期比D I 25年1月～3月期に比べ	前年同期比D I 24年4月～6月期に比べ	今期比D I 25年4月～6月期に比べ	前年同期比D I 24年7月～9月期に比べ
製造業	▲ 2.6 3.0	0.0 6.1	▲ 2.6 2.9	▲ 5.3 5.9
建設業	54.2 (▲ 13.0)	60.0 (▲ 17.4)	47.8 4.3	52.2 8.7
卸売業	15.4 (▲ 14.3)	12.0 (▲ 13.8)	11.5 (▲ 3.6)	11.5 (▲ 10.3)
小売業	23.3 (▲ 14.3)	20.0 (▲ 15.2)	30.0 5.9	23.3 (▲ 8.6)
サービス業	8.3 (▲ 10.7)	8.3 3.7	13.0 14.3	18.2 7.4
全業種	17.5 (▲ 9.5)	18.3 (▲ 6.9)	17.7 4.8	17.3 0.0

(注1) ( ) 内は前回調査時(25年1月～3月期)のD I 値

(5) 雇用の動向

**今期の従業員数**

前年同期比D I (24年4月～6月期と比べた「増加」-「減少」企業数構成比)は、全業種で20.9と前回調査時(25年1月～3月期:D I 2.8)より18.1ポイント上昇している。業種別にみると、建設業が46.3ポイント上昇し前年同期に比べ雇用人員が増加している。また、製造業がマイナスからプラスに転じる一方、サービス業は、プラスからマイナスに転じ減少している。

前期比では、全業種で25.0と前回調査時(25年1月～3月期:D I 2.7)より22.3ポイント上昇している。業種別にみると、すべての業種のポイントが上昇し、前期に比べ雇用人員は増加している。

また従業員過不足D Iは、全業種で▲3.5と前回調査時(25年1月～3月期:D I ▲15.5)より12.0ポイント上昇したものの、製造・サービス業では従業員の「不足」が「過剰」企業数構成比を上回っている。

**次期見通し**

前年同期比D I (24年7月～9月期と比べた「増加」-「減少」見通し企業数構成比)は、全業種で17.2と前回調査時(25年1月～3月期:D I 3.4)より13.8ポイント上昇している。

今期比D I (25年1月～3月期と比べた「増加」-「減少」見通し企業数構成比)では、建設業で60.0と55.7ポイント大幅に上昇し、雇用の増加を見通している。

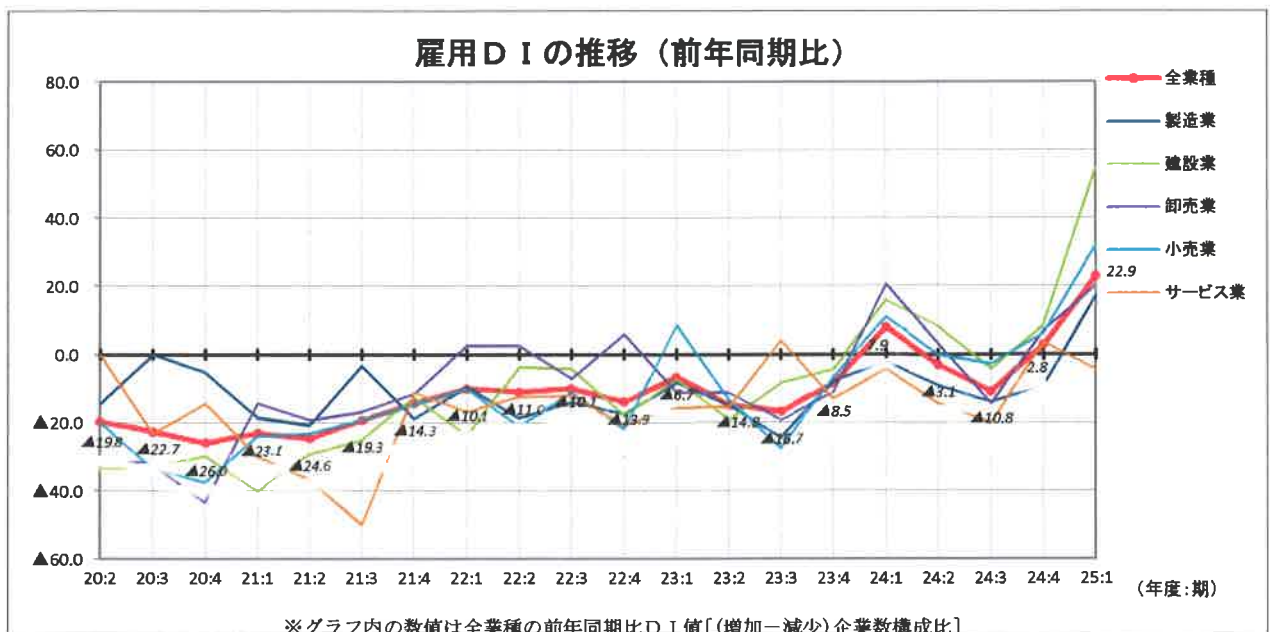


表5 雇用D I

	今期結果 (25年4月～6月期)				次期見通し (25年7月～9月期)					
	従業員過不足D I 25年4月～6月期の業況		前期比D I 25年1月～3月期に比べ	前年同期比D I 24年4月～6月期に比べ	今期比D I 25年4月～6月期に比べ		前年同期比D I 24年7月～9月期に比べ			
製造業	▲ 10.3	(▲ 2.9)	16.2	3.0	13.5	(▲ 9.1)	0.0	5.9	5.4	2.9
建設業	0.0	(▲ 39.1)	57.9	13.0	55.0	8.7	60.0	4.3	70.0	(▲ 4.3)
卸売業	4.0	3.4	23.1	3.6	20.0	7.1	4.0	10.7	0.0	0.0
小売業	20.7	(▲ 11.8)	30.0	2.9	32.1	6.3	31.0	6.1	27.6	11.8
サービス業	▲ 33.3	(▲ 35.7)	8.3	(▲ 7.1)	▲ 8.3	3.7	4.2	14.3	▲ 4.3	3.7
全業種	▲ 3.5	(▲ 15.5)	25.0	2.7	20.9	2.8	18.4	8.2	17.2	3.4

(注1) ( ) 内は前回調査時(25年1月～3月期)のD I 値

(注2) 表中の従業員過不足D I とは、過去との比較ではなく、今期の業況水準を示している

↓  
(「過剰」-「不足」)企業数構成比

2. 今期および次期の新規設備投資について

今期(25年4月～6月期)の新規設備投資実施企業割合は、全業種で39.6%と前回調査時(25年1月～3月期:18.1%)より増加している。設備投資目的では、依然として「老朽のための更新」が最も多く44.4%、次いで22.2%で「経営多角化・商品多様化設備」、17.8%で「省力化・コストダウン設備」と続いている。

次期(25年7月～9月期)の新規設備投資実施予定企業割合は、全業種で35.5%と前回調査時(25年1月～3月期:18.1%)より増加している。設備投資目的では、今期と同様に「老朽のための更新」が48.6%と最も多く、次いで「経営多角化・商品多様化設備」(28.6%)、「省力化・コストダウン設備」(20.0%)、「その他」(2.9%)と続いている。

業種別にみると建設業が最も多く65.0%、次いで小売業(43.3%)、サービス業(41.7%)、卸売業(38.5%)、製造業(23.1%)と続いている。

表6 新規設備投資実施企業割合および目的

【単位：%】

	実 施 企 業 の 割 合	新 規 設 備 投 資 目 的				
		① 売 上 増 加 に 伴 う 増 設	② 経 営 多 角 化 ・ 商 品 多 様 化 設 備	③ 老 朽 の た め の 更 新	④ 省 力 化 ・ コ ス ト ダ ウ ン 設 備	⑤ そ の 他
製 造 業	<b>23.1</b>	<b>7.7</b>	<b>7.7</b>	<b>61.5</b>	<b>15.4</b>	<b>7.7</b>
	(32.4)	(0.0)	(9.1)	(45.5)	(27.3)	(18.2)
建 設 業	<b>33.3</b>	<b>0.0</b>	<b>27.8</b>	<b>44.4</b>	<b>22.2</b>	<b>5.6</b>
	(21.7)	(16.7)	(0.0)	(50.0)	(33.3)	(0.0)
卸 売 業	<b>65.0</b>	<b>11.1</b>	<b>55.6</b>	<b>22.2</b>	<b>11.1</b>	<b>0.0</b>
	(21.7)	(16.7)	(0.0)	(50.0)	(33.3)	(0.0)
小 売 業	<b>66.7</b>	<b>0.0</b>	<b>20.0</b>	<b>40.0</b>	<b>40.0</b>	<b>0.0</b>
	(6.9)	(0.0)	(0.0)	(66.7)	(33.3)	(0.0)
サ ー ビ ス 業	<b>38.5</b>	<b>33.3</b>	<b>0.0</b>	<b>50.0</b>	<b>16.7</b>	<b>0.0</b>
	(6.9)	(0.0)	(0.0)	(66.7)	(33.3)	(0.0)
全 業 種	<b>16.0</b>	<b>0.0</b>	<b>100.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>
	(5.7)	(0.0)	(0.0)	(66.7)	(33.3)	(0.0)
全 業 種	<b>43.3</b>	<b>50.0</b>	<b>0.0</b>	<b>50.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>
	(5.7)	(0.0)	(0.0)	(66.7)	(33.3)	(0.0)
全 業 種	<b>34.5</b>	<b>0.0</b>	<b>33.3</b>	<b>66.7</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>
	(25.0)	(0.0)	(0.0)	(50.0)	(50.0)	(0.0)
全 業 種	<b>41.7</b>	<b>0.0</b>	<b>30.8</b>	<b>38.5</b>	<b>30.8</b>	<b>0.0</b>
	(25.0)	(0.0)	(0.0)	(50.0)	(50.0)	(0.0)
全 業 種	<b>29.2</b>	<b>0.0</b>	<b>25.0</b>	<b>62.5</b>	<b>12.5</b>	<b>0.0</b>
	(18.1)	(3.2)	(3.2)	(51.6)	(35.5)	(6.5)
全 業 種	<b>39.6</b>	<b>13.3</b>	<b>22.2</b>	<b>44.4</b>	<b>17.8</b>	<b>2.2</b>
	(18.1)	(3.2)	(3.2)	(51.6)	(35.5)	(6.5)
全 業 種	<b>35.5</b>	<b>0.0</b>	<b>28.6</b>	<b>48.6</b>	<b>20.0</b>	<b>2.9</b>
	(18.1)	(3.2)	(3.2)	(51.6)	(35.5)	(6.5)

(注) 上段は今期、下段は次期、( )内は前回調査時(25年1月～3月期)の割合  
設備投資目的は複数回答あり

### 3. 経営上の問題点について

現在最も苦慮している経営上の問題点を業種別でみると、製造業は燃料価格の高騰による「原材料高」、建設業は各調査での好転・増加を背景とした「労務費の増加」、卸売業では「売上・受注の不振」「販売価格の値下がり」、小売業は売上見通しの横ばいによる「売上の不振」、サービス業は従業員の不足を背景とした「求人難・人材難」が1番の問題点として回答している。

【単位：％】

